

A4 用紙

(定例山行)

(報告:東川 征夫)

山(山域・ルート) **木曾御嶽山**

(剣ヶ峰 30.67m・麻利支天 2,959m・飛騨頂上 2,659m)

【日時】22年9月18日(土)～9月20日(月)(2泊3日)

【メンバー】L/東川・阿部・鎌田

飯田・浜野・箕島

(計6名)

【行動記録】(記録:飯田)

18日:大宮(9:15)⇒桶川I.C.(10:10)

⇒双葉SA(12:25～13:10)⇒

伊那IC(13:50)⇒買い物(14:00～

14:20)⇒銀河村キャンプ場(16:00)

泊

19日:銀河村キャンプ場(5:35)⇒田ノ原

登山口P.(6:00～6:15)⇒大江権現

(6:45～6:50)⇒八合目非難小屋(7:50)⇒九合目避難小屋(8:55～9:05)⇒

王滝奥ノ院(9:40～9:45)⇒王滝頂上(10:00～10:20)⇒剣ヶ峰(11:00～

11:50)⇒賽の河原非難小屋(13:45～13:55)⇒摩利支天乗越(14:10～14:15)

摩利支天山(14:35～14:45)⇒五ノ池小屋(15:35)泊

20日:五ノ池小屋(7:05)⇒賽の河原非難小屋(7:40～7:45)⇒二ノ池新館(8:05)

⇒御嶽教御神火斎場(8:40)⇒王滝頂上(8:45～9:00)⇒九合目非難小屋(9:15

～9:25)⇒八合目非難小屋(10:05～10:10)⇒大江権現(10:45)⇒田ノ原登山口

P.(11:05～11:20)⇒こもれびの湯(11:40～11:50)⇒伊那IC(13:20)⇒

諏訪湖SA(13:05)～14:55)⇒一宮御坂IC(16:48～16:44)⇒道の駅丹波

(17:55～18:10)⇒そば屋(御岳)(19:20～19:40)⇒大宮駅(21:00)

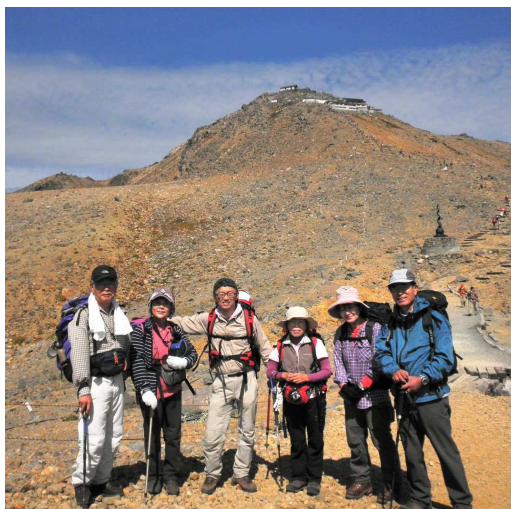
行動時間 上り:歩行時間6時間・休憩時間:3時間20分 合計:9時間20分

下り:歩行時間3時間10分時間・休憩時間:48分 合計:4時間5分

【装備・食料等】

【共同装備】: テント5人用(2)・トランシーバー(1)・ツェルト(2)

トランシーバー(1)・GPS(1)・カセットコンロ(1)・ガス(3)・大鍋(1)



ランタン

【個人装備】：ヘットランプ・雨具・防寒衣・ストック・スパッツ・コンパス

地図・携帯電話・水筒・手袋・帽子・タオル・入浴用品と下着一式・保険証

【共同食糧】：18日夕食・19日朝食・小屋食（19日夕食・20日朝食）

献立は女子会員 キムチ鍋（伊那農協で購入）

【個人食糧】：18日昼食（SAで）・19日と20日の昼食・非常食・嗜好品

【感想】

18日、大宮出発を当初8時にしていたが、女性群の要望で9時にした。中央高速道の混雑はそれほどでもなく順調に走り、13時10分伊那ICを降りた。

インター近くの伊那農協ショッピングセンターで、共同食の食材を女性群がテキパキと購入してゆく、今夜はキムチなべである。

権兵衛峠から木曾谷に入る。王滝村を經由し、キャンプ場までは相当の距離である。銀河村キャンプ場は、白樺と蓮華ツツジ林の中にある設備の整ったキャンプ場で、すでに大勢のキャンパーが入っている。5人用テント2張りを設置、早速食事の用意、瞬間にキムチなべが出来上がる、流石である。

テントの外で車座になり宴会。夜中雲間にキラキラと輝く星座に感動する。

19日は4時起床、6時には田ノ原駐車場に到着したが車で一杯、いつの間にこんなに集まったのだろうかと思議に思う。やはり人気の山である。

田ノ原登山口から数珠繋ぎになり、もくもくと登る。天気は快晴見晴らし最高。我々は九合目から列を離脱し、王滝奥ノ院へ、こちらに向う登山者は稀である。

奥ノ院から眺める剣ヶ峰と地獄谷はすばらしい、樹木が1本もない砂漠の山だ。ここには3体の像が安置されている。

拝礼を済ませ王滝頂上へは僅かな距離である。王滝頂上の社前で休憩を取り、剣ヶ峰へ。登山道は石だらけの急登である。山頂は老若男女子供でごった返している。山頂の御嶽神社の脇には、神官か役ノ行者かの像がある。青銅で作られているのか、地獄谷から噴出すガスで全身紫黒色になっている。

しかし目だけは金色に輝いていた。

体の大きい外人が流暢な日本語で話し掛けてきた。北ドイツ出身で40年も日本に在住しており、何回かこの山に来ているとのこと、娘と孫と来たと言う、可愛い孫がはしゃいでいた。

御嶽山は独立峰なので360度の眺望である、天気が良く遠くの山々まで眺めるこ

とができた。真下に見える二ノ池は、コバルトブルーの美しい水を湛えていた。御嶽神社の左に回りこむと左側は噴火口と地獄谷だ、水のない一ノ池を取り囲むように出来た外輪山を歩き、二ノ池新館前に出た。ここで一本立ててサイノ河原を経由し、摩利支天山（2959m）へ、山頂は平らな尾根の一番左奥にあった。ここから五ノ池小屋まで40分を要し、15時35分に到着した。既に小屋には大勢の登山客がおり、寝所は忝に3人のとのこと。予約をしておいたので下段の一番奥に案内してくれた。夕食を済ませ、素晴らしい夕日を眺めた後、またちょっと一杯。20時半ごろ寝所に行った時には、隣には若い女性が既に休んでいた。躰で迷惑を掛けてはと、反対向きに布団にもぐりこむ、消灯は21時だった。翌朝は小雨。4時起きで継子岳に登る予定を断念し、合羽を着てご来光を見に出るが雲が厚く白んで明るくなる空を見るだけだった。帰路は、三ノ池の上部をトラバースし賽ノ河原非難小屋を経由し二ノ池に出た。池の北斜面には雪渓が残っていた。二ノ池上部の案内板から、剣ヶ峰をトラバースし八丁ダルミに出て、王滝頂上から九合目非難小屋、田ノ原登山口へと下山した。歩行時間は3時間10分だった。駐車場の車はまばら、昨日皆帰ってしまったのだろうか。帰途入浴のため、近くの「こもれびの湯」に立ち寄ったが、入浴は1.3時からとのこと、仕方無しに諏訪SAまで走って、入浴と昼食を摂ることにした。休日と在って大変混雑していた。SAを15時少し前に出発する。山梨県に入って双葉SAで休憩のあと甲府昭和ICあたりから渋滞に巻き込まれた。ラジオの交通情報は、笹子トンネル内でバイクの人身事故発生、30Km以上の渋滞と報じている。一寸ずりの走行である。箕島さんの発案で、一宮御坂ICで降り塩山・丹波村・青梅を経由し大宮には21時に着いた。途中道の駅丹波村で休憩し、御岳で美味しいそばを食べた。夜間の交通情報でも小仏トンネルでの渋滞を報じていた。回り道が正解だった。3日間充実した山行だった。以上